

第Ⅱ章 市政戦略編

小牧市民憲章に掲げる理想のまちを実現するため、「こども夢・チャレンジNo.1 都市」「健康・支え合い循環都市」「魅力・活力創造都市」の3つの都市ヴィジョンをまちづくりの機軸に掲げました。

市政戦略編は、この都市ヴィジョンを機軸としてまちづくりを進めるうえで、限りある行政の経営資源をより無駄なく最適に配分しながら、効果的・効率的で持続性が高い自治体経営を推進していくための、そして、市長の強いリーダーシップと責任のもと、優先的に経営資源を投入し、強力で推し進めていくための事業群であり、どの様な考え方あるいは方策に基づき実現していくのかを示した「戦略」と、戦略の具体的な実行手段の核となる「重点事業」を示します。

都市ヴィジョン1 「こども夢・チャレンジNo.1 都市」

これまで、「こども夢・チャレンジNo.1 都市宣言」や「小牧市地域こども子育て条例」の制定、「こども夢・チャレンジ基金」、「こども夢サポーター制度」、「夢にチャレンジ助成金」などの創設のほか、「学習支援事業『駒来塾』」、「ひとり親家庭等支援事業」、「児童クラブの受入拡大」などに取り組んできました。

今後も、家庭環境や境遇にかかわらず、すべてのこども達が夢を育み、未来を描いて挑戦することができるまち、そして、来るべき未来社会を見据えて、充実した教育・子育て環境を実現するため、次の戦略により、「こども夢・チャレンジNo.1 都市」を目指します。

戦略1 来るべき未来社会を見据えて、すべてのこども達が夢を育みチャレンジできる環境の創出



小牧市の誇る「子育て支援が充実している」姿を一層高めるとともに、未来社会を見据えて、さらに高い地域の姿として「こどもの夢を育み、夢へのチャレンジをみんなで応援するまち」「こどもを中心にすべての世代がつながっているまち」、そして、「すべての世代が暮らしやすい、あたたかい支え合いのまち」を目指します。

【まちの状態を表す指標】

指標名	基準値	目指す方向
将来の夢や目標を持っているこどもの割合	79.1%	↑
安心して子育てができるまちだと思う保護者の割合	82.6%	↑

<重点事業1-1 すべての子ども達が夢を育み挑戦できる環境の整備>

こどもの夢への挑戦を応援し、子どもを中心に世代や立場を越えて市民がつながり、地域全体での子育てや地域活動の活性化を後押しするため、小牧市の子育ち・子育ての中核施設となる「(仮称) こども未来館」の整備や「駒来塾」による学習支援活動、こども夢・チャレンジ推進事業などを通じて、家庭環境や境遇にかかわらず、すべての子どもが夢を育むことができる環境の整備を進めます。

【事業の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目標値(R4年度)
コマキッズドリームプロジェクトに参加したこどもの数	6,922人	10,000人

<重点事業1-2 すべての子育て家庭への支援>

夫婦共働きや核家族化などによる家庭環境の変化、仕事や趣味などの価値観の多様化など、子育て家庭の状況はさまざまです。そのため、子育て支援の拠点として、妊娠期から子育て期までの包括的なサポートを行う子育て世代包括支援センターや児童館の子育て支援室において、親子が気軽に集い、交流できる場や機会を提供するなど、安心安全な妊娠・出産・子育てができる支援を行います。

あわせて、保育所や児童クラブの「待機児童ゼロ」を維持するとともに、保育施策の質を向上します。

【事業の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目標値(R4年度)
子育て世代包括支援センターや各児童館での相談件数	6,320件	7,000件
子育てについて相談できる人がいる保護者の割合	96.9%	100%

<重点事業1-3 Society5.0を見据えた教育の推進>

近年の社会は、第4次産業革命と言われるほど、情報通信技術や人工知能などのテクノロジーが急速な発達を遂げており、私たちの生活に大きな変化をもたらしつつあります。その変化は凄まじく、子ども達が生きるこれからの社会の有り様を正確に予測することが困難なほど大きなものです。

このような大変革の時代に、未来社会を生きていくことになる子ども達は、社会の変化とともに必要に応じて自らを成長させ続け、生き抜いていける確かな力を身につけることがとても大切です。

そこで、まずは、① こどもの学習プロセスにおけるICTの活用、② 授業での学習効果を高めるICTの活用、③ 特別な支援を要するこどもの教育におけるICTの活用、④ 教員研修の充実と地域への情報発信の4つの基本方針のもと、ICTの活用推進に積極的に取り組みます。

【事業の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目標値(R4年度)
タブレットPCを活用した授業はわかりやすいと感じている児童生徒の割合	—	85.0%

都市ヴィジョン2 「健康・支え合い循環都市」

これまで、市民の健康づくりに向けて、小牧市独自の人間ドック制度や健康いきいきポイント制度の創設、各種検診の充実、ウォーキングアプリ「alko」の開発、高齢者外出支援のためのこまき巡回バスの拡充などに取り組み、市民の元気づくりを応援してきました。

そして、地域協議会の設立・運営支援、支え合いいきいきポイント制度の創設、高齢者サロン事業の推進、在宅医療・介護連携サポートセンターの開設など、支え合いの地域づくりに積極的に取り組んできました。

高齢者の割合が増え続ける中、地域で支え合って自分らしくいきいきと安心して暮らし続けることができる「幸せな高齢社会」を実現するため、今後も、健康・生きがいがづくり支援と支え合いの地域づくりを両輪とした次の戦略により、「活力ある高齢社会（小牧モデル）」＝「健康・支え合い循環都市」を目指します。

戦略2 “健康・生きがいがづくり”と“支え合いの地域づくり”の循環により、自分らしくいきいきと安心して暮らすことができる「活力ある高齢社会（小牧モデル）」の構築



すべての市民が健康で生きがいのある人生を生きつつ、市民同士が地域で互いに支え合い助け合う、「健康」と「支え合い」が循環するまちを目指します。

スポーツや生涯学習（社会教育）の充実を通じて、健康・生きがいがづくりを支援するとともに、個人の学びを地域に還元し地域を支える担い手を育成し、市民活動・地域活動の充実を図ります。

そして、市民と行政などの協働による地域単位での防災訓練や防犯対策の充実などを通じて、災害に強く、犯罪の起こりにくい安全な地域づくりを進めるとともに、こまき巡回バスを含む高齢者の外出支援や見守りの充実に取り組みます。

さらに、医療・介護・福祉などの体制や連携の充実を図り、健康維持・介護予防活動などを強化し、地域における支え合い活動の充実とともに、年をとっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるまちを目指します。

【まちの状態を表す指標】

指標名	基準値	目指す方向
生きがいを持って暮らしている65歳以上の市民の割合	82.9% (平成29年度)	↑
地域に貢献する活動をしている市民の割合 ※基準値は令和2年度に設定します。	—	↑

<重点事業2-1 (仮称)健康・支え合い循環都市宣言>

人生100年時代を見据えて、高齢者から若者まですべての市民が生涯にわたって元気に活躍するためには、心身ともに「健康」であることが重要です。

さらに、人と人がつながり支え合うことで、ひとりの「健康」からさらなる「健康」が生み出され、支え合いによる循環により、まち全体の元気が生み出されます。

そこで、あらゆる世代の人が健康でいきいきと生活できる「健康で生きがいのある 明るいまち 小牧」の実現にむけて、市の取組みだけでなく、各種団体や企業、市民活動の中に「健康」の視点が浸透し、すべての市民が積極的に健康づくりに取り組み、互いに支え合う地域づくりを目指して、都市宣言を行います。

【事業の進捗状況を測定するための指標は設定しません。】

<重点事業2-2 市民の健康寿命の延伸>

市民総スポーツを目指して、適度な運動に取り組む啓発やきっかけづくり、環境整備を行うことにより、すべての市民の健康維持・増進を図ります。

さらに、生涯を通じて健康を保つためには、オーラルフレイル予防をはじめとする生活習慣病などの疾病予防、介護や認知症予防などのフレイル予防を一体的に推進する必要があります。栄養／口腔・運動・社会参加の3つの柱からなるフレイル予防を推進します。

【事業の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目標値(R4年度)
週1回以上適度な運動をしている成人市民の割合	46.1%	65.0%
フレイル予防事業への参加者数	1,500人	3,700人
日頃から口腔ケアをしている市民の割合 ※基準値及び目標値は令和2年度に設定します。	—	—

<重点事業2-3 生涯学習を通じた生きがいづくりと人材育成>

すべての市民が生きがいをもって暮らせるように、(仮称)生涯学習・市民活動連携センターを拠点として、市民の生涯学習の環境を充実するとともに、地域のボランティア活動や市民活動、NPO活動、事業所などによる地域貢献活動などのきっかけづくりや活性化に取り組みます。

【事業の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目標値(R4年度)
生涯学習に関する講座の受講者数 ※基準値及び目標値は令和2年度に設定します。	—	—
(仮称)生涯学習・市民活動連携センターが関わった活動への参加者数 ※基準値及び目標値は令和2年度に設定します。	—	—

<重点事業 2-4 地域協議会を通じた地域活動の活性化>

市民自らが地域の課題解決に向けて話し合い、活動し、支え合いの地域づくりを推進するため、小学校区を基本単位として、区長をはじめ民生児童委員や保健連絡員、子ども会や老人会などとの横断的な連携が機能するコミュニティ組織である「地域協議会」の設立を推進するとともに、防災や地域福祉活動をはじめとした地域協議会による活動を支援します。

【事業の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目標値(R4年度)
地域協議会が設立された数	8組織	16組織
福祉分野の活動をしている地域協議会の数	2組織	16組織

<重点事業 2-5 健康・支え合い活動の充実と地域内循環の促進>

地域内循環を生み出す仕掛けであるポイント事業などを通じて、市民の健康づくりや支え合い活動のきっかけや励みとなるインセンティブを生み出します。

日常生活の中で健康への関心を高め、楽しみながら健康づくりに取り組むことができるよう、健康づくりや生きがいづくりを推進する事業の充実を図ります。

同時に、高齢化が進む中で、行政だけでは難しい「安全・安心な地域づくり」を市民とともに実現していくことを目指し、広く市民のボランティア活動への関心を喚起し、社会参加や地域貢献につなげ、市民の主体的な地域支え合い活動を育成、支援します。

なお、これらの地域内循環を生み出すための経済的トリガーとして、「プレミアム商品券（市内限定商品券）」を有効に活用します。

【事業の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目標値(R4年度)
健康いきいきポイント還元者数	1,088人	2,000人
支え合いいきいきポイント還元者数	849人	2,000人
市内でプレミアム商品券が使える店舗数	569店	現状維持

都市ビジョン3 「魅力・活力創造都市」

これまで、小牧市の将来を見据えて、市内企業の操業支援、企業の誘致・産業集積の推進や、市内の消費循環を高めるこまきプレミアム商品券発行事業、史跡小牧山を会場とするこまき信長夢夜会や小牧発祥の名古屋コーチンなどを核とした観光振興などに取り組み、小牧市の魅力と活力を高めてきました。

今後も、持続可能な魅力と活力あふれる小牧市を実現するため、次の戦略により地域活性化を図り、将来にわたって輝き続ける「魅力・活力創造都市」を目指します。

戦略3 「住みたい」「働きたい」「訪れたい」魅力あふれる小牧の創造



持続可能な都市運営とすべての世代にとって快適な生活環境を実現するため、地域振興のバランスを図りつつ、「コンパクト・プラス・ネットワーク」の考えに基づいたまちづくりを進めます。

まちの核としての中心市街地の目指すべき将来像や取組みの方向性を示す「ランドデザイン」を描きつつ、中心市街地の魅力とにぎわいを創出するとともに、新たな魅力を備えた暮らしとなる東部のまちづくりを目指し、「東部振興構想」を策定します。

また、小牧市の強みであるバランスの良い産業集積を持続的に高め、企業の新事業展開や生産性の向上を支援し、将来にわたって経済・雇用・財政の基盤が確立された活力あるまちを目指します。

【まちの状態を表す指標】

指標名	基準値	目指す方向
小牧市に愛着や誇りを感じている市民の割合	74.9%	↑
名鉄小牧線沿線居住人口	88,704人	↑

<重点事業3-1 中心市街地の魅力とにぎわい創出>

魅力あるサードプレイスとして、こどもから高齢者まで多くの市民が集う滞在型の「新しい図書館」、こどもの夢を育み、夢への挑戦を応援し、こどもを中心に世代や立場を越えて市民がつながるための「(仮称)こども未来館」、「小牧駅前広場等」の三位一体の整備を中心市街地活性化の再スタートと位置づけ、その相乗効果・波及効果を最大限に生かしたまちづくりを進めるべく、市民とともに今後の中心市街地の将来像を描き、魅力とにぎわいのある中心市街地を創出します。

指標名	基準値	目標値(R4年度)
中心市街地の来訪者数	—	75万人

＜重点事業 3-2 東部地区の振興＞

市民四季の森や温水プールなど市内外から多くの人を訪れる施設がある東部地区の魅力をさらに高めるため、東部スマート I C の開設や農業公園の整備など周辺開発と連携したまちづくりなど、「東部振興構想」を策定し、市民や団体、企業などと一体となって取り組みを進めます。

【事業の進捗状況を測定するための指標は設定しません。】

＜重点事業 3-3 将来を見据えた市内産業力の強化＞

小牧市の強みであるバランスの良い産業集積をさらに高め、持続的な財政・雇用・産業の基盤の形成を図るため、「こまき新産業振興センター」により、市の施策とリンクした「成長産業への参入促進」、「新事業展開の促進」、「生産性革命の推進」を図るとともに、成長産業を含めた市内への生産拠点などの新增設を支援します。

【事業の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目標値 (R4 年度)
こまき新産業振興センターの支援活動を契機に生産性を向上させた企業数	—	20 件
生産拠点などの新增設件数	—	10 件

＜重点事業 3-4 プレミアム商品券による商業振興＞

プレミアム商品券（市内限定商品券）の流通インフラを維持することで、市内の経済循環を促進し、特に市内中小商業・サービス業の活性化と事業継続を支援するとともに、地域経済を下支えするため、プレミアム商品券利用者の利便性の向上を図ることにより、市内での消費を喚起します。

【事業の進捗状況を測定するための指標】再掲

指標名	基準値	目標値 (R4 年度)
市内でプレミアム商品券が使える店舗数	569 店	現状維持

＜重点事業 3-5 小牧市の食や名産品の普及・開発＞

市民にとって親しみがもて、さらに市外にも PR できるような、小牧ならではの食や土産物などの名産品を掘り起こすとともに、新たな開発に取り組みます。

【事業の進捗状況を測定するための指標】

指標名	基準値	目標値 (R4 年度)
食・名産の開発件数	0 件	3 件